



「まちづくり」の視点

市長 4月から「第6次白石市総合計画」がスタートしました。本市の最上位計画で、今後の10年間を本市がどういう方向に進むかの大きな地図だと思っています。

「総合計画」の策定には、市民の方の声もたくさん入っています。そのなかで「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまちしろいし」を今後の本市の目指す将来像とし、基本的視点として3つの柱を掲げています。1つ目が「ひとづくり」、2つ目が「地域力の向上」、3つ目が「新しい価値の創造」です。この3つの柱を10年間の大きな方針としています。新田先生は、多くの地域に足を運ばれ、まちづくりに関わっているなかで、「ひとづくり」についてどのようなお考えをお持ちでしょうか。

新田 東北学院大学の地域構想学科で、子どもが育つまちづくり、住民参加のまちづくりなど教えています。国内の元気の良いまちづくりの取材もしていますが、今回白石の計画策定に携わり、市民の方の意見が多く盛り込まれていて、役所が考える「この位で良いだろ

う」というところから1歩も2歩も前進していると感じました。

人づくりで重要なのは子どもたちです。アメリカのトランプ前大統領はアメリカファーストと言いますが、小池東京都知事は都民ファーストと言いました。ただ僕は「子どもファースト」だと思っています。子どもは未来を担うわけですから、白石の子どもたちのために、子育てするなら白石というバックアップ体制は非常に重要です。「こじゅうろうキッズランド」(以下、「キッズランド」)を起点として、1つ目の柱である「ひとづくり」の一助になればと考えています。

おかげさまで「キッズランド」は、昨年は新型コロナウイルスの影響がありました。人口約3万3千人の白石市に年間約10万人の来場がありました。これはこれも予想していなかった数字です。「キッズランド」をきっかけに、白石を知ってもらって、ここに住んでみようか、という人が出てきたらと考えています。

民間が生み出す力

市長 「キッズランド」は、「みやぎ・せんだい子どもの丘」に運営

日本各地のまちづくりを手掛ける仕掛人とのトークセッション 山田裕一 × 新田新一郎

本市では、本年度から10カ年を計画期間とする新たな総合計画となる「第6次白石市総合計画」を策定しました。

今回は、「第6次白石市総合計画」を実現するための具体的な施策をまとめた「白石市まち・ひと・しごと創生『第2期総合戦略』」の委員を務めた新田新一郎氏と山田市長が、これからのまちづくりについて対談しました。

していただいているので、非常に期待をしています。このような施設を行政が国からの支援を受けて建てることはできません。しかし、施設をどのように運営していくのか、施設にきた子どもたちや保護者の方たちが、また次も来たいと思ってもらえる仕組みづくりが重要だと思っています。

新田 その点は非常に大事な点です。行政が作る内容が役所に寄ったお堅いプログラムになってしまいがちです(笑)。何回来てもしっかり、また来たいよねとなるには、民間の力をいれておもしろさを膨らませていくことが大事で

す。来場者10万人という数字はリピーターの方が多いからです。このようなことを民間の力で生み出したのはとても大きいと思っています。


昨年、「キッズランド」で子どもたちに段ボールで家を建ててみようというイベントを行いました。その晩は、「キッズランド」で自分で作った段ボールの家に泊まったので、子どもたちは大喜びでした。

このイベントを行政で行うには、公の施設に子どもたちを泊めるノウハウが無いので難しいと思います。民間事業者を活用する。白石市その方向は間違っていない、それが時代の流れだと僕は「キッズランド」の運営から確信を持っています。

市長 民間活用という話が出ましたが、「キッズランド」で行われた、絵本作家の先生と子どもたちが施設の壁に絵を描いたライブペインティングも、行政では発想できません。行政には無いコネクションで、日本を代表する絵本作家さんが白石市に来るということが実現するなど、私は今後のキッズランドにとっても期待しています。



▲「キッズランド」で行われた段ボールで家を建てるイベントの様子



新田 新一郎
しんいちろう
 有限会社プランニング 代表・アトリエ自遊楽校 主宰
かい
じゅうがっこう
 全国各地でまちづくり講師として関わり、地域活性化の提案を行っている。本市「白石市まち・ひと・しごと創生『第2期総合戦略』」の委員、NPO法人みやぎ・せんだい子どもの丘副理事長を務め、「こじゅうろうキッズランド」の運営は同法人に委託している。